

# 北海地鶏Ⅱ種鶏の自然交配法による安定的な素雛生産

道総研畜産試験場 家畜研究部 中小家畜グループ 技術支援グループ

## 1. 試験のねらい

北海地鶏Ⅱの民間種鶏場における効率的な素雛生産を可能とするため、雄種鶏（名古屋；以後N♂）と雌種鶏（大型シャモ雄×ロードアイランドレッド雌；以後GP9♀）の平飼いおよび自然交配条件下での適正な配雄時期、配雄比率および配雄方法を明らかにし、安定的に素雛を生産する飼養管理技術を示す。

## 2. 試験の方法

- 1) 育成期のGP9♀群へのN♂の同居時期を12、14、16週齢とし、体重、生存率、有精卵率等から、自然交配による適正な配雄時期を明らかにする。
- 2) GP9♀群に対するN♂の羽数割合を10%、15%、20%とし、体重、生存率、有精卵率等から、自然交配による適正な配雄比率を明らかにする。
- 3) N♂の飼育場に対する馴致（飼育場の囲い柵による同居前4時間の馴致飼育）が、配雄後の闘争行動や飼料摂取（体重）に及ぼす影響を明らかにする。
- 4) 民間種鶏場において、場内試験で設定した配雄時期16週齢、配雄比率15%、配雄時の馴致、および、GP9♀に対する制限給与についてその効果を検証する。

## 3. 成果の概要

- 1) GP9♀群に対するN♂の配雄時期は、N♂の生存率が高いことおよび50%産卵時の有精卵率が高いことから16週齢とするのが適切である（表1）。
- 2) 配雄時期を16週齢とした場合、GP9♀群に対するN♂の配雄比率は、N♂の損耗を考慮し15%が適当と考えられた（データ略）。
- 3) 配雄時期を16週齢、配雄比率を15%とした場合、囲い柵での飼育場に対するN♂の馴致により、GP9♀に対するN♂の社会的順位の優位性が高くなり、配雄後のN♂の体重の減少が見られなかった（図1）。
- 4) 配雄時期を16週齢および配雄比率を15%とし、N♂の馴致を行うことで、181-300日齢ヘンハウス産卵率が55%以上およびふ化率が70%以上と現地における北海地鶏Ⅱ素雛の良好な生産が確保できる（表2）。

上記の飼養管理方法を採用し、種卵の導入を3月および4月の2回、素雛の生産期間を1～7月とした場合、現状の生産目標である年間5万羽生産計画は、配雄時のGP9♀の一群羽数を700羽とし2群管理とすることで達成できる（表3）。

## 4. 留意点

- 1) 本試験成果は、北海地鶏Ⅱの素雛を生産する種鶏場で活用する。
- 2) 平飼い自然交配以外の光線管理等の一般管理は、従来種の種鶏管理に準ずる。
- 3) 雌種鶏に対する飼料給与プログラムは暫定とする。